














































1. 景気動向

今回調査によるD・I値（好転と回答した数から悪化と回答した数を引いた値）は、建設業、製造業、卸売業では前回調査に比べて「業況」はかなり改善されており景気回復の傾向が見られる。一方で、小売業、サービス業は前回調査時より更に悪化しており、商業関係での厳しい現況が窺える結果となった。

		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		7~9月	10~12月	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		 27	 20	 24	 14	 17	 0	 55	 37	 20	 15
採算		 14	 26	 23	 13	 8	 17	 55	 38	 30	 30
資金繰り		 6	 13	 12	 13	 9	 0	 42	 38	 20	 26
業況		 14	 7	 16	 11	 10	 1	 45	 40	 31	 44
経営上の 当面する 問題点	1位	請負単価の低下・上昇難		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下・上昇難		販売単価の低下・上昇難		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	官公需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		大企業の進出による競争の激化	
業種別 コメント		<p>災害復興特需や季節的要因もあると思われるが、売上高は「請負単価の低下・上昇難」を要因に若干マイナス結果となったが、「採算」「資金繰り」と「業況」で大幅に改善されてきている。しかしながら、材料仕入単価の上昇を背景に来期は「採算」面で悪化する」と回答している企業割合は高く、今後もこの傾向が続くものと予想される。</p>		<p>前回調査時に比べて、設問4全項目においてD・I値はマイナスで推移しているが、その値は減少しており、全体の業況はやや改善されていると言える。しかし、業種にバラツキはあるものの依然として企業間格差が顕著となっている。また、設備投資も前期に比べてやや減少し、回答のあった63社中、16社で設備投資を実施しており、景況はしばらく横這いのまま推移するものと予想される。</p>		<p>売上高、業況ともに久しぶりの回復傾向となった。来期への見通しも全般的に明るい見通しであり少しずつではあるが、景気回復が見受けられる。しかしながら、経営上の当面の問題点「仕入れ単価の上昇」と、採算性が見通しが暗いというあたりから、依然として企業間での激しい競争が推測される。業界の本格的な景気回復は、小売業の業況回復次第で、少し先になりそうである。</p>		<p>前半の天候不順や後半の猛暑の影響から、思った以上に個人消費は伸びず、中元商戦も伸び悩みの感があり、D・I値も全般的にマイナス幅が大きく、依然厳しい状況が続いている。来期の見通しは、年末商戦に入ることから個人消費の伸びを期待し、全体的にマイナス幅が縮小している。「購買力の他地域への流出」を経営上の当面する問題点に上げているが、やはり消費者ニーズにどのようにして取り組むかが当面の課題である。</p>		<p>レジャーの多様化による分散や利用単価の低下などによる売上高減少や飲食関係を中心に利用客が減少し、全体的にD・I値のマイナス幅が増えた。来期の見通しでは、忘年会シーズンによる利用客の増加への期待もあり、売上高はやや改善の方向ながらも、需要の停滞や利用単価の低下から採算や資金繰りが横ばいまたは減少傾向と、業況的に厳しい見方が強い。サービスの質の向上に向けた改善が必要と思われる。</p>	

*表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

				
とくに好調 (50 DI)	好調 (25 DI<50)	まあまあ (0 DI<25)	不振 (25 DI<0)	きわめて不振 (DI<25)

当所では分析にあたってD・I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。